



北海道修学旅行／カナダ研修旅行

2年生普通科は9～12日、国際総合科は5～10日、それぞれ北海道（ルスツ・小樽）、カナダ（バンクーバー）へ、修学旅行、研修旅行に行きました。普通科修学旅行はスキー・スノーボード実習を中心に、競技雪合戦、スノーモバイル、ワカサギ釣り等の選択体験や小樽観光など、国際総合科研修旅行はホームステイ、観光、大学見学、高校交流など、充実したメニューが用意されました。

ここでは、国際総合科カナダ研修旅行の感想を紹介します。（普通科北海道修学旅行については、裏面に、写真でその様子を紹介します。）



ホストファミリーとたくさんコミュニケーションできました。この経験を活かし将来に繋がたいです／自分の英語に自信がなくても、積極的に話すことが大切だと改めて思いました。このことを意識したことで少しだけですが自分を変えることができたのではないかと思います／ホームステイ先では優しい方たちに迎え入れてもらえてとても充実した時間を過ごすことができました。モールへ連れて行ってもらう道中でリサイクルショップに寄ったとき、缶や牛乳の容器など家庭ごみをたくさんリサイクルしているのを見て意識の高さを知りました。日本でもスーパーでペットボトルやプラスチックトレイなどを集めているので、家庭ごみでは捨てずにそこに持っていくことが大切だと思います。どんなに小さなことでも絶対大きなことに繋がると思うのでこういうことも続けていきたいです／伝えたいけどどう伝えればいいのか分からなかったりするから、インプット・アウトプットをしっかりしようと思った／頑張っって英語を話しても通じないことがあったけど、通じた時はとても嬉しかった。もっと自分の英語力を鍛えて、ネイティブの人達と支障無く話せたらいいなと思った／間違えてもいいので、自分がなぜ間違えたのかなどのフィードバックをし、改善すること／人間はエスパーではないので、自分が思ったこと、したいことはできるだけ伝えること／ミスを恐れず英語を話すことの大切さを学びました。ホストファミリーとの会話は全て英語で、言いたいことを英語に言い換えることが難しく、話すことを諦めようと思ったりしましたが、諦めずに簡単な英語を繋ぎ合わせ文を作り相手に伝えました。伝わった時はとても嬉しかったです／自分から話しかけることを躊躇せずたくさんいろいろな話をホストファミリーや学校訪問でのバディーとできました／たくさん会話をすれば日に日に耳が慣れてきて意識しなくても英語が聞きとれるようになったのが勉強になりました。もっとたくさんコミュニケーションをとれるようにこれからも英語の勉強を頑張りたいです／今回の研修で一番学んだと感じることは「コミュニケーション能力の重要さ」です。Regent Christian AcademyやHomestay先等、初めて行く環境が多い中、いかに現地の方々と親しくなるかがとても重要だと感じていました。その中で、相手が話しかけてくれるのを待っていたり、最低限の会話しかしないのであれば海外に行った意味は全くないと思います。したがって、自分から積極的に話しかけ、文化の違いを共有したりすることにより新たな発見もあり、より楽しいですし、自分自身のコミュニケーション能力も向上したと今回の研修を通じて感じました。



比較のトリック（悪意はなくても）に注意しましょう。

「日本は給与が低い」とよく非難されます。まさにその通りで、2021年ではOECD加盟38の国・地域の中で24位、1位の米国の半分以下でした。しかし、日本は物価も低く、（ネット上の情報ですが）日常的消費食材の卵の値段が、（円換算で）米国では1ダース（12個）800円強、なのに対し、日本では10個200～300円程度です。なので、給与が低くても生活水準が低いわけではありません。むしろ、一般庶民には低い物価はありがたいことです。給与を上げるためには製品やサービスの料金を上げなければならず、物価が上昇して、高給取りではない一般庶民ほど生活が苦しくなります。「（全労働者の）給与の上昇が物価の上昇を上回る」状態は、需要に供給が追いつかなかった高度経済成長時代のノスタルジーです。結局は、「給与は低いが物価も低い」or「給与は高いが物価も高い」を、メリット・デメリットを勘案して選択するしかないのです。（あくまでも私個人の意見です。）

みなさんの探究活動でも、物事を一面からだけ見て「これがいい！」と決めつけていませんか？ 少なくとも逆の立場からの（できれば多面的な）考察を交えると、一方的な主張ではない説得力のある研究になりますよ。

【国際・探究推進部長 田尻 淳】